

[別紙 2]

## 審査の結果の要旨

氏名 鈴木 麻揚

本研究は、高機能（IQ $\geq$ 70）の児における広汎性発達障害（PDD）の鑑別補助尺度を開発したものである。幼少児の発達全般と自閉行動を評価するために開発された養育者記入式の東京小児発達スケジュール（TCDS）および東京自閉行動尺度（TABS）を用い、高機能のPDD、注意欠陥/多動性障害（AD/HD）およびその他の障害の3群間における発達と自閉行動を比較し、高機能の児におけるPDDの鑑別補助尺度を開発した。さらにDSM-IVの診断基準項目との関連をふまえて診断補助尺度としての意義を検討した。

本研究では、発達障害を有する乳幼児の療育相談機関である某市C地域療育センター受診児から、1:1のIQのマッチングを行い、PDDを有する子ども（PDD群）24人、PDDを有したことのないAD/HDを有する子ども（AD/HD群）24人、およびPDDあるいはAD/HDのいずれも有したことのないその他の診断を受けた子ども（OTHERS群）24人の3群について検討した。用いた養育者記入式の尺度は、東京小児発達スケジュール（TCDS）、東京自閉行動尺度（TABS）である。

まず3群間において、TCDSおよびTABS各項目ごとの課題達成人数割合または問題保有人数割合に差がないか $\chi^2$ 検定を行い検討した。次に有意差のみられた項目と後のPDD診断との関連を見出すために、有意差のみられた項目を独立変数、PDD診断（該当 vs. 非該当）を従属変数として変数減少法を用いたロジスティック回帰分析を行った。PDDの診断と関連のみられた項目のみを用いて鑑別尺度を作成し、高機能の児におけるPDD児の鑑別尺度としての有用性をReceiver Operating Characteristic Curve（ROC曲線）を用いて検討した。最後に作成した鑑別尺度とDSM-IVの診断基準項目との関連を検討した。

主要な結果は下記の通りである。

1. PDD群、AD/HD群およびOTHERS群の3群間において、TCDSの各項目の課題達成人数割合に有意差がないか検討したところ、(15)「母や父など大人になったつもりで役割をうけて遊ぶ」と(17)「友達に自分が経験した事を話す」の2項目に有意差がみられた。(15)の課題達成人数割合は、PDD群が有意に小さく(25.0%)、OTHERS群が有意に大きかった(86.4%)。(17)の課題達成人数割合は、PDD群が有意に小さく(33.3%)、AD/HD群が有意に大きかった(78.3%)。

2. PDD群, AD/HD群およびOTHERS群の3群間において, TABSの各項目ごとの問題保有人数割合に有意差がないか検討したところ, (2)「人と視線をあまりあわせない」, (4)「他の子供や大人と交流が乏しく(あるいは無く), 一人あそびが多い」, (10)「うれしいとか, 悲しいなどの感情の表出が乏しい(みられない)」, (7)「ほしい物などを指さしでなく, 手全体ですす」, (8)「バイバイという様に手を振るが, 普通と逆に手の甲を相手にむけてふる」, (9)「物の名前は聞けばよく言うが(これ何と聞く時など) そのわりに会話はできない」, (11)「名詞や動詞は使えるが, それ以外の形容詞などはあまり使わない」, (5)「物事をやる順序が決っていて, これが変ると非常にいやがる(騒ぐ)」の8項目に有意差がみられた。これらすべての項目について, PDD群の問題保有人数割合は, 他の群に比べ有意に大きかった。
3. TCDSおよびTABSの有意差のみられた10項目のうち, PDD診断と関連のある項目を見出すために変数減少法を用いたロジスティック回帰分析を行ったところ, 次の3項目が抽出された。TCDS(15)「母や父など大人になったつもりで役割をうけもって遊ぶ」, TCDS(17)「友達に自分が経験した事を話す」, TABS(5)「物事をやる順序が決っていて, これが変ると非常にいやがる(騒ぐ)」。
4. 上記の3項目を, 高機能の児におけるPDDスクリーニング尺度(鑑別補助尺度)(TCDS/TABS-3)とした。TCDS/TABS-3は, カットオフを2点とした場合, 感度0.75, 特異度0.84, 陽性的中率0.72, 陰性的中率0.86であった。またこの時の全判別率は80.9%であった。
5. DSM-IVの自閉症の診断項目は大きく(1)対人的相互反応における質的な障害, (2)意思伝達の質的な障害, および(3)行動, 興味および活動が限定され, 反復的で常同的な様式の3つに分けられている。TCDS/TABS-3の項目である(15)「母や父など大人になったつもりで役割をうけもって遊ぶ」は, 「意思伝達の質的な障害」, また(17)「友達に自分が経験した事を話す」は, 「対人的相互反応における質的な障害」, (5)「物事をやる順序が決っていて, これが変ると非常にいやがる(騒ぐ)」は, 「行動, 興味および活動が限定され, 反復的で常同的な様式」を反映したものと解釈できた。TCDS/TABS-3は3項目であるが, 自閉症の診断基準全体を反映しているものと解釈できた。

以上, 本論文は, 高機能の児におけるPDDの鑑別補助尺度を開発している論文であるが, 養育者記入式の発達全般(TCDS)と自閉行動(TABS)を評価する2尺度をもとに検討した点, およびIQをマッチングしたPDD群, AD/HD群そしてOTHERS群を対象として検討した点で独創的である。また開発した鑑別補助尺度をDSM-IVの診断基準項目との関連をふ

まえ，診断補助尺度としての意義を検討したことは，高機能の児における PDD 児の鑑別診断に適切な情報を提供し得るという点で，臨床的有用性をも兼ね備えており，学位の授与に値するものと考えられた。